

鈴木は友達と二人でファミリーストランに入った。扉を開けると、

「いらっしやいませ！」というウエイトレス達の声が店内に響いた。お昼のランチタイムで活況のいい店の出入り口には、順番待ちの客が溢れている。

「二人なんですけど、どれ位待ちますか？」鈴木が案内係に尋ねた。

「おそらく三十分はお待ちいただくことになると思いますが・・・」

「三十分ですか、構いません。待つてます」

「恐れ入ります。それでは、お名前をお願いします」

「鈴木です」

「鈴木様ですね。お席は禁煙席、喫煙席どちらがよろしいですか？」

「禁煙席をお願いします」

「はい、わかりました。ではお名前をお呼びするまで暫くお待ちください」

イスに座って順番を待っていると、およそ三十分後によく「鈴木」の名前が呼ばれた。

「二名でお越しの鈴木様、鈴木様！ たいへんお待たせいたしました」

席へ案内されると、二人はすぐメニューを広げ、注文の品を決めた。

「ご注文はお決まりでしょうか？」

「はい。ホウレン草とサーモンのクリームスパゲッティと、さけ雑炊と、シーフードサラダ、それにジンジャーエール、アイスコーヒー、ショートケーキ、サバラン、以上でお願いします」

「申し訳ありません。ショートケーキは本日終わってしまったんです。今ごきますのが、レアチーズケーキ、シフォンケーキ、それに、ホットケーキとアップルパイになります」

「では、シフォンケーキで」

「シフォンケーキですね、かしこまりました。それとシーフードサラダのドレッシングは何にいたしますか？」

「何の種類がありますか？」

「和風、フレンチ、中華、セパレート、梅ドレッシングの五種類がございます」

「そうですか。ではセパレートをお願いします」

「はい、かしこまりました。お飲物は食前食後のどちらにいたしますか？」

「食前をお願いします」

「かしこまりました。それではご注文を繰り返します。ホウレン草とサーモンのクリームスパゲッティがお一つ、さけ雑炊がお一つ、シーフードサラダがセパレートドレッシングでお一つ、ジンジャーエールがお一つ、アイスコーヒーがお一つ、シフォンケーキがお一つ、サバランがお一つ、以上でよろしいでしょうか？」

「はい、結構です」

注文を終えてから数分後、ジンジャーエールとアイスコーヒーがテーブルに運ばれてきた。